

令和3年度大雪山国立公園連絡協議会

東大雪地域登山道維持管理部会（第2回）議事

■日 時：令和3年6月22日（火）13:00～16:00

■会 場：上士幌町生涯学習センター わっか

■出席者：資料のとおり

（十勝総合振興局・村上氏、ボレアルフォレスト・阿久澤氏 当日欠席連絡）

■概 要

1. 開会

■大雪山国立公園管理事務所長 広野所長

・本日の部会は、昨年12月の第1回に引き続いての第2回目の開催となる。部会は、歩道の荒廃の課題解決を目指すために協議を行う場として発足。第1回では、公園事業としての歩道の未執行区間の解消に向けて、事業執行することのメリットについて共通認識を持つことを目的とした。第2回では、より具体的な協議を行うために、実際の東大雪における歩道の課題の事例を紹介しながら、荒廃している状況に対して、どのように解決を進めていけるか協議いただきたい。歩道といっても、グレードや現場の状況は様々であり、どのようなステップを踏んでいけば、それぞれの課題に応じた解決策が見いだせるのかということを議論いただきたい。国立公園事業としての歩道事業執行が本来望ましい姿ではあるが、事業執行するまでの間は何もできないのかというと、場合によってはそういうわけでもないで、各歩道の置かれている実情に応じた維持管理・補修を、どのような具体的な仕組み・体制で進めていけるか議論いただきたい。また、本日は、各構成員からの報告もあるので、課題解決を目指して、有意義な会議としたい。

2. 議事

（1）登山道荒廃等の課題解決に向けて

事務局より資料1説明

■ひがし大雪自然ガイドセンター

・（課題事例は、）それぞれの山の現状分析は大切であり、良いと思う。ただ、東大雪は、トムラウシを除き、スタートラインにも立てない未執行区間。できることは、倒木処理やササ刈り、枝払いに限られ、泥濘化対策などはできない。限られた予算・人員をどこに配置するのか考えると、上士幌は石狩・ニペソツ、然別だと東ヌプカ・白雲山、トムラウシ。共通認識として問題に挙げているということ

であるが、つまりは、各歩道の保全対策ランクを改善して、歩きやすくしたいということ。予算・人員などは、クラウドファンディングなど色々やり方があるとしても、やってしまうと法律に抵触してしまう状況。未執行区間の壁に阻まれて何もできない。ぬかるみがあろうが、歩ける程度にすることが最大のできること。行政でしか未執行区間の解消はできないので、優先順位を持って取り組んでいただきたい。その上で、このような現状分析は重要。

■事務局

- ・ウペペサンケにおける看板や標識の整備については、どのように考えるか。

■ひがし大雪自然ガイドセンター

- ・直角にカーブする1,399mや菅野温泉との分岐にはあった方がよい。当該箇所の既存看板は、私もいつ設置されたか知らないもの。このような状況であれば撤去してしまっても良いかも知れない。

■十勝山岳連盟

- ・ウペペサンケは、平成28年の台風により林道が崩壊し、かなり遠い山になってしまった。30年前は町民登山ができる山であった。登山口までは車で行くことができ、菅野温泉方面からも車でアクセスできた。西ピークも含め、4時間程度で行くことができた。昨年も2回ほどウペペサンケに行ったが、東京方面から10名程度で来ている団体（60代中心）がいて、1,600mまで行って帰ってくるだけで疲弊して、最後の林道を歩けないような状況だった。これを見て、人を入れるべきでないとも感じた。ただ、自然を管理するという観点では、今の状況を大きく変えることにはならないであろう。石狩やニペソツと比べると近い山であったが、今は遠くなってしまった。林道の問題でもあり、環境省に言っても仕方ないところではあるが。また、山を登る寸前にトイレに行けるようにした方がよい。簡易トイレでもあれば良い。

■北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・ひがし大雪自然ガイドセンターからの指摘に共感。管理者不在の場所はどうしようもない。行政でないと管理者になれない、個人でなるにはハードルが高すぎる。環境省が管理者になるには、どのような手続き等が必要なのか。

■事務局

- ・手続きとしては、自治体等が管理する場合とほぼ同じ。環境省が管理主体となる場合は直轄事業となるが、歩道として使う場所の測量をして、土地所有者から貸付を受けるといった流れは変わらない。ただし、環境省が直轄管理できる範囲には限度

があり、より核心的な部分を中心に管理していくこととなる。

■北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・各市町・行政が管理できる範疇が決まっているのであれば、大雪山の登山道は、それに準じた距離になるべきではないか。現在の歩道の状況が総延長 300km を超える中で、それを管理しようとするならば、それなりの予算や人員を配置した上で、国立公園として機能させるべきではないか。管理者不在の歩道を管理しようとしても、空論になるのは目に見えている。こういったことを議論するのであれば、管理者になります、といったところから始まるのではないか。

■事務局

- ・これは大雪山に限った話ではないが、国立公園においては、最初に保護と利用の計画を定め、公園制度が動き出す前提で、歩道を含めた利用施設を誰が事業執行するのか決まってくる。大方の場合は、公園計画が全体として示された中で、国・自治体・民間など事業執行者が出てきた段階で事業規模の決定が行われ、執行していくという流れとなる。執行できない公園計画に意味がないという指摘はごもっともな部分もあるが、大方の場合、まずは利用計画が定まった上で、事業決定・執行がなされていくこととなる。このため、利用・執行の見込みのない路線については、公園計画を見直し、場合によっては、計画から削除するということも、随時行っていかなければならない。総延長に対して事業執行が追いついておらず、すべての路線がカバーできていないのが現状。

■事務局

- ・事業未執行については重要な問題ではあるが、事業執行に向けては、測量・貸付といったプロセスが必要となる。このため、事業執行を将来的な目標として掲げながらも、できることをやっていくというのが現実的なところと考えている。

■新得山岳会

- ・管理者不在ということで、新得側の十勝岳コースも、次第に荒れてきている。このまま放置しておく、登山道が分からなくなるという危機感すら持っている。このため、例えば、新得山岳会でやれることをやるので、環境省のグリーンワーカー予算を少しでもつけてもらうといったことは考えられないか。半分ボランティアといった感じになるであろうが、そういったことをやらないと、次に進まない。

■事務局

- ・新得町側から十勝岳に向かうルートは、距離が長いので、管理も大変だと思う。将来的には、いずれかの者が管理主体となることが望ましいが、それまでのつなぎと

して、環境省として予算手当てできるメニューがあれば、随時、紹介していく。ただし、予算の出所如何によらず、人員・手をかけないと荒れていくというのは、どこも同じであり、数年に一度、何らかの単発的な予算をつけて倒木処理やササ刈りをするとしても、数年後には同じ状況になってしまう。このため、やはり、事業執行した上で、管理者が継続的に管理していくというのが理想。一方で、然別湖では、協議会関係者による協働という形で、様々な主体が力を出し合って、管理しているという事例もあり、事業執行しないと何もできないという訳ではない。ただ、やはり、何らかの者が主体となり、それに支援をしていくというのが、安定的な管理が可能であると考えている。

■事務局

- ・十勝山岳連盟からの話では、以前はウペペサンケへの町民登山ができていたという話があったが、これは、地元として山を意識しなくなったのか、それとも、林道の状況などによって遠ざかってしまったのか。

■十勝山岳連盟

- ・元々、十勝は山に恵まれていると言われるが、今は登れる山はそれほど多くない。ニペソツも、もともとは町民登山で行けた山であるが、今では10時間近くかかる山であり、人を連れて行くのは難しい。いずれの山も、山自体は険しくないが、長い距離を歩かなければならないところが課題。

■ひがし大雪自然ガイドセンター

- ・ウペペサンケは、糠平小学校（数年前に廃校）の学校登山で、生徒・先生・PTAが糠平富士まで登っていた。校歌にもその名が入っていたほど、地元では親しまれた山。平成28年の台風で林道が通行不可となり、車止めから5.2kmの距離を、2箇所の崩落箇所も含めて歩く必要がある。このため、地元有志が、車止めから2.6km（約半分の距離）でいけるルート案を検討し、関係機関と検討を進めている。そこまでしても登りたいというのが、地元の素直な気持ち。ウペペサンケは、日本百名山の後書きにも書かれている山であり、再び登れる日が来ると良い。国有林の水源かん養保安林ということで、水を切ったり木道を作成したりすることは難しいが、ニペソツの幌加コースなどは、泥濘で評判が悪い。平成28年の台風の後で幌加コースを復活させた時は、これほど人が来るとは思わなかった。対策ができず、もどかしい気持ちである。

■事務局

- ・ちなみに、ニペソツには、道庁に尽力いただき、携帯トイレブースと回収ボックスを設置いただいている。このため、最も長時間トイレが無いのはウペペサンケとい

うことになる。

■事務局

- ・先日の表大雪部会でも保安林内での作業行為について聞いたが、泥濘化している箇所に丸太などを置く程度の作業でも、事業執行していないと難しいのかを全国の事例を聞いてみると、必ずしも、そうでもないようである。森林管理署として、どこまで維持管理・現場の対応として可能なのか、別の機会にお聞かせいただければ考えている。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲氏

- ・今回、ウペサンケを例に、このような整理をされたことは意義がある。東大雪は、未執行区間が多く、利用者も少ない面があるが、利用者が少ないからといって、長い歴史もあり、簡単に路線を無くして良いというわけではない。東大雪の路線は、グレードとは異なる大変さがあると思う。一方で、先日の表大雪部会において美瑛町から正直にお話いただいたが、自治体が事業執行者となる際の課題は、測量にかかる費用や万一事故が起きた際の管理責任というよりも、多少なりとも町費を使って維持管理を継続的にやっていけるのか、という点のように見受けられた。地元で大してお金を落とさない登山者のために、様々な問題を抱えている自治体が町費を充てられるのか、バランスの中で考えていかなければならないということだと思う。環境省は、このような点をしっかり考えるべきであるし、こういった議論の継続は大切。

■事務局

- ・管理のやり方は、路線ごとに様々であると思うが、先ほどご紹介した然別湖での経緯や取組について、鹿追町から少しご紹介いただきたい。

■鹿追町ジオパーク推進課

- ・然別湖周辺の登山道については、然別自然休養林保護管理協議会で整備しているが、かなり以前の話であり、協議会設置にかかる背景は分からない。

■株式会社北海道ネイチャーセンター

- ・以前は、町からの予算により、地元山岳会が維持管理を行ってきたが、高齢化も相まって出来なくなったことから、その流れで設置されたようである。

■事務局

- ・事業執行が公園利用制度から見ても理想ではあるが、それまでのつなぎという意味も込めて、各地で知恵を絞っていただいているということの事例かと思う。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺氏

- ・これまでは、協議会レベルでなんとかしていこうという対処療法で必死にやってきたのだと思うが、昨年、大雪山国立公園連絡協議会が総合型協議会にリニューアルし、登山道維持管理部会を設置したことから、今後、どういう風に管理を進めていくのか、しっかり決めていかなければならない。東大雪側でも議論していくべき。

■事務局

- ・渡辺先生からのご指摘どおり、これまでとは異なる仕組み・体制作りのための改組であり、部会設置であることから、しっかり進めていきたい。事業執行が進みにくい背景をしっかり調べて、個別に相談していく必要があると感じている。その中で、どのようなメリット・デメリットがあるのか、ご理解いただけていないこともあると思う。デメリットが大きくないのであれば、自治体に執行いただくことで、関係者に参画いただく受け皿も出来ると思うので、今後、丁寧に説明・相談していくしかないと考えている。

■大雪山国立公園パークボランティア連絡会

- ・現在、ニペソツの十六の沢のコースは林道にアクセスできないという状況のため、幌加側からのコースが使われているが、保全対策ランクが非適用区間となっている。当該区間については、ランクをつけて、それに見合った整備をしていってほしい。

■事務局

- ・ご指摘のとおり、幌加温泉コースには、現行版（2015年改訂版）の管理水準では保全対策ランクが付されていないので、次回改定時に検討したい。

■北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・配付資料でも、適正な整備・適正な管理と記載されているが、何をもって適正な状態というのか分からない。何をもって適正なのか記載がなく、共通認識もない。最も恐れるのは、対処療法的なつなぎを続け、素人意見が通ってしまい、「それで良いんだ」と思われること。登山道整備は簡単ではなく、今の整備によって、十年後や百年後の登山道の姿が大きく変わってきてしまう。何をもって適正と判断するのか、せめて、植生や地質などの専門家意見を聞いてもらいたい。

■事務局

- ・今は、皆で知恵や力を出し合ってなんとかしのいでいるが、そのやり方で良いのかどうかは、長期スパンで見えていく必要があるという点は、ごもっともであると思う。

■事務局

- ・登山道維持管理部会は、昨年度発足したばかりであり、部会規約にも、細かな進め方は記載されていない。本日ご提案したような路線ごとの整理を各自治体に行っていたら、部会で「お悩み相談」的なことをしていくという考え方もある。例えば、先ほど新得町山岳会より問題提起のあった曙橋十勝岳線道路（歩道）について、どのようにしていきたいか、地元自治体としてお考えがあれば紹介いただきたい。

■新得町産業課

- ・当該ルートには、秘奥の滝など、観光名所と呼ばれる箇所もあり、一定数の問い合わせは受けている。可能であれば、整備等は行いたい、かかる費用が課題。現状、新得町では、トムラウシ短縮登山口及び温泉口からカムイ天上・コマドリ沢にかけての草刈りを実施している。これは、麓の東大雪荘の利用拡大、観光活性化に寄与しているという側面があるので、当該ルートについても、新得町の観光振興に寄与するのであれば、整備もあり得ると考えている。費用の面もそうであるが、新得町として整備をしていく理屈付けが必要。

■上士幌町商工観光課

- ・ニペソツ、石狩岳については、ひがし大雪自然館管理運営協議会からひがし大雪自然ガイドセンターへの委託という形で、ササ刈り程度を続けていることを想定している。町内の未執行区間をどう解消していくのかは、役割分担も含めて、大きな課題として認識している。今回、ケーススタディとしてウペペサンケを話題として取り上げていただいたが、今後も、当部会の中で議論いただくとありがたい。ウペペサンケについては、ひがし大雪自然ガイドセンターから紹介があったとおり、今後町内でも一定の動きがあると思われるので、皆さんからアドバイスをいただきつつ、ケーススタディを活かせればと思う。

■事務局

- ・ウペペサンケだけではなく、部会の中では意見がまとまらないこともあると思うので、そのような場合には、個別に議論できる場を設けて個別具体的な議論を行い、それを部会に持ち帰って報告、というスタイルもあり得ると思う。

■鹿追町ジオパーク推進課

- ・登山道維持管理部会が立ち上がる前に、部会設置の必要性について、未執行問題解決のための場として聞いていた。しかし、それが前進していない事に、皆さんもストレス感じているのではないかなと思う。それには、自治体や関係機関が動くしかないと思うが、数年前、上士幌管理官に、直々に町長に説明いただいた。このような

目に見える形で進展見えると、部会参加者の意識も変わってくると思う。結局最後は、政治的な話になると思われる。然別湖周辺については、現時点で多額の費用が必要ということではないので、そもそも執行者になることはお荷物、という意識をどう変えていけるかだと思う。また、何をもちて適正とするかの話もあったが、例えば洗掘が進んでから補修するのではなく、洗掘が進む前に長い目で見て対策を打つことも大切だと思う。

■土幌町産業振興課

- ・町として白雲山登山道の事業執行という動きは把握していないが、毎年7月初旬頃、土幌町側の登山道整備を実施している。観光拠点として重要とすることであれば、商工の観光部門として事業化することも考える価値はあると思うが、現時点では、特に変更は考えていない。

■事務局

- ・今後の進め方としては、未執行の部分を個別具体的に相談しながら、同時並行で、できることを引き続きやっていくことかと思う。
- ・次回（第3回）部会に向けては、自治体による事業執行が難しい理由を深掘り・整理し、資料に反映していきたい。また、未執行という状況の中で、どのような管理であればできるのか、関係機関にも確認していきたい。また、情報が必要という登山道もあると思われるので、本日のような認識共有という形で示すことも含め、どこに比重を置いて協議いただきたいか、事務局としても検討したい。

3. 報告事項

(1) 令和3年度大雪山国立公園連絡協議会総会及び登山道維持管理部会の取組事項について

事務局より資料2-1以降について説明

(2) 新型コロナウイルスへの対応を含む各団体の活動予定について

※各構成員・オブザーバーからの報告概要以下のとおり。

■事務局（資料2-2-1）

- ・資料2-1でもご紹介し、十勝総合振興局からの資料（2-2-2）とも関連するが、トムラウシ短縮登山口に、携帯トイレ配布ボックスを設置予定。あわせて、南沼野営指定地のテント数カウントや野外し尿痕跡調査も継続して実施予定である。これらの取組を通じ、南沼野営指定地における野外し尿問題の改善につなげたい。

■鹿追町ジオパーク推進課（資料2-2-3）

- ・ 然別自然休養林保護管理協議会として、明後日（6月24日）に春季の登山道整備を実施予定。NPO 法人かむいさんに、南ペトウトル及び西ヌプカウシヌプリにおいて、多くの倒木処理を行っていただき、大変助かっている。特に、チェーンソーが必要な作業を行っていただけたことは有り難い。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺氏（資料2-2-4）

- ・ 登山道に直接関連した調査ではないが、とち鹿追ジオパークに関連して、山中から平地にかけて調査を実施する。また、然別湖周辺でナキウサギの調査に入る可能性もある。なお、直接指導している学生ではないが、すでにナキウサギの調査を実施している学生もおり、ジオパーク推進課にもお世話になっている。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲氏（資料2-2-5）

- ・ 関係者のアンケート調査を実施しているので、ぜひ、皆様にもご回答・協力いただきたい。また、東大雪に関しては、南沼でヤシマツトを施工している箇所の調査を、定点を作って継続実施中。天候不良により、予定していたドローンによる撮影・測量ができていないため、今シーズンに再度試みたい。また、登山者数の変化のデータを解析し、過年度のものについては、今月、大学のフェイスブックでも紹介している。引き続き、傾向分析を行っていく。

■日本山岳会北海道支部（資料2-2-6）

- ・ 道庁からの委託事業として、高山植物盗掘防パトロールを実施予定。資料では41名とされているが、42名を予定。7月25日には、1泊2日の行程で、美瑛富士避難小屋トイレブースの清掃・点検を行う。裏旭野営指定地では、同野営指定地の携帯トイレ検討連絡会の活動の一環として、アンケート調査を実施予定であり、日程調整中。

※東大雪地区で笹狩り及び倒木処理を実施されている NPO 法人かむいより受けた年間スケジュールを資料として添付したため、その件について事務局より補足意見を求める。

■NPO 法人かむい（傍聴参加：当日資料配付及びスクリーンにて映写）

- ・ 先ほどご紹介のあったとおり、南ペトウトル及び西ヌプカウシヌプリにおいて、下の方だけではあるが、倒木処理を行った。西ヌプカウシヌプリの上の方については、かなりかかり木が多く、かなりの注力が必要となることから、体制を整えて秋頃に実施したいと考えている。また、昨年、東雲湖から天望山にかけて倒木処理した際、白雲山方面への下山の草刈りが必要と感じたが、然別自然休養林保護管理協議会で整備予定とのことなので、当方による対応は不要と考える。東ヌプカウシヌプリについても、かかり木が少しずつ倒れてきて、手が届きそうなも

のは処理したいと考えている。

4. その他

■北海道山岳整備、一般社団法人大雪山山守隊

- ・今期、白雲岳避難小屋の管理をすることになっている。コロナ対策として、本来は定員 50 名以上のところを概ね 25 人としてやっていくが、日によっては大変混み合うことが想定される。このため、白雲岳避難小屋ホームページに、宿泊申告システムを作ってみた。宿泊予定者が事前に書き込むことにより、混雑具合の状況を知ってもらうのが目的。当該小屋に泊まる予定がある方は、ぜひ、この事前申告を使っていたきたい。

また、白雲岳避難小屋では、宿泊に伴う協力金の他に、登山道整備のための協力金も徴収することになっている、宿泊者のみならず、通行人からも 1,000 円の協力金を徴収しようとするもので、全国的にも珍しい取組。無理に取ろうとせず、このような取組をやっていることを知らせる感じで、徴収をお願いしていこうと考えている。うまくいけば、登山道の草刈りなどの取組にも使える資金となるため、ご理解いただけるよう、関係各位にも周知のご協力をお願いしたい。

また、表大雪では、北海道庁からの委託により、標識補修を実施予定。誘導標識については、距離表示のみ表示されているものが多いが、一般登山者約 800 名へのアンケート調査の結果、距離のみで良いとしたのは約 3 割、時間のみで良いとしたのは約 2 割、両方欲しいというのが約 5 割、という結果が出た。つまり、距離だけで良いとしたのは約 3 割のみであり、一般登山者は時間表示も求めていることが分かった。今期、10 箇所程度の標識を補修するが、その際に、このようなデータを活かしていければと考えている。

■鹿追町ジオパーク推進課

- ・標識については、大雪山国立公園での統一デザインとして、環境省がとりまとめを行うものではないのか。

■事務局

- ・今回補修される標識は、北海道庁さんが整備したものである。今後、環境省として標識の再整備を進める際の参考事例とはするが、必ずしも、そのまま全てが反映されるものではないと考えている。

■鹿追町ジオパーク推進課

- ・取組としては素晴らしいと思うので、関係者の知恵・情報を集約していけると良い。

■新得山岳会

- ・トムラウシでは、岩の目印に赤と黄色のペイントが混在しており、落ち着かない。大雪の他地域ではグレーもあると聞いている。すべてを統一するのは難しいかも知れないが、せめて同じ山の中では統一できると良い。環境省で検討してもらいたい。また追って、環境省にもご相談する。

■事務局

- ・個別具体的な課題として、部会とは別に、関心のある関係者で話すのも良いと思う。ぜひ、ご相談していきたい。

5. 閉会

(※閉会后、新得山岳会より、トムラウシ短縮登山口に設置予定の携帯トイレ配布ボックスの実物が展示され、オンライン参加者にも画面共有された)